

## 学位論文審査の結果の要旨

平成 30 年 12 月 20 日

|           |   |        |                           |                  |
|-----------|---|--------|---------------------------|------------------|
| 審査委員      | 主 査   | 上野正樹   |                           |                  |
|           | 副主査   | 中村隆範   |                           |                  |
|           | 副主査   | 平野博也   |                           |                  |
| 願 出 者     | 専攻  | 機能構築医学 | 部門                        | 神経機能再生学          |
|           | 学籍<br>番号  | 15D710 | 氏名                        | 松本 淳志            |
| 論 文 題 目   | Histidine-rich Glycoprotein Could Be an Early Predictor of Vasospasm after Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage |        |                           |                  |
| 学位論文の審査結果 | <input checked="" type="radio"/> 合格   | ・      | <input type="radio"/> 不合格 | (該当するものを○で囲むこと。) |

〔 要 旨 〕

【目的】

急性期SAH患者において髄液中HRG濃度を測定し、Spasm群とNonspasm群における差異を検討した。さらに、経時的な濃度変化を測定することでHRGがCVSの早期予測マーカーとなりうるかを検討した。

【方法】

急性期SAH患者における髄液検体をそれぞれT1-3と3期に分類し、Spasm群とNonspasm群におけるHRGおよび他のbiomarkerの濃度測定を行った。また、control群として正常圧水頭症患者および良性腫瘍患者の髄液中濃度を同様に測定した。さらに、SD-ratから採取した動脈血と人工髄液を混合した人工血性髄液モデルを作成し、生体内にあわせて37℃でincubateし、240時間後まで6回検体採取しそれぞれHRG濃度を測定した。

【結果】

T1におけるHRG濃度は、control群、Nonspasm群、Spasm群の順に高値となりcontrol群とSpasm群の間には有意差を認めた。また、T1値を基準値として、T2、T3値の変化量を測定すると、Spasm群ではそれぞれ低下するのに対してNonspasm群では逆に上昇した (P<0.01)。人工血性髄液モデルにおけるHRG濃度の推移は、Nonspasm群に類似する結果が得られた。

【結語】

群間におけるHRG濃度の変化量の相違は、HRGがSAHにおけるCVSの早期予測マーカーとして有用である可能性を示唆している。